

診療科紹介

■ 診療科 医科部門

■ 診療科 歯科部門

■ 中央診療施設等

■ 院内診療支援施設等

■ 別府病院

内科

リウマチ・感染症、循環器、腫瘍、消化器領域の専門医が高い専門性を持って診療にあたっています。それと同時に各診療グループの連携を密に行って全身的な内科ケアを実践し、高齢の方・複数の疾患がある方にも安心して治療を受けていただける体制を整えています。標準的治療・新規治療に加えて、リハビリテーション、温泉療法、疼痛緩和治療等を含めた幅広い治療オプションを提供します。



科長 三苫弘喜



内科集合写真2026

【得意分野】

- リウマチ・膠原病:60年以上におよぶ診療と研究の伝統があり、関節リウマチをはじめ多くの自己免疫疾患の患者さんが通院されています。温泉プールによるリハビリテーションも行っています。
- 感染症:基礎疾患をもつ患者さんの感染治療を適切に行うことを目的として、2023年4月に感染症内科が新設されました。肺炎、尿路感染症、蜂窩織炎など様々な感染症の治療、院内の感染対策管理を行っています。
- 循環器:心不全診療に注力しており、原因疾患の治療や生活習慣の改善による予防に取り組んでいます。高血圧・心房細動・睡眠障害などを抱える多くの患者が通院しており、多職種が連携して心不全の管理・指導・リハビリを包括的に実施しています。
- 悪性腫瘍:乳がん、甲状腺がん、膵がん、胃がん、大腸がん、肺がんなど、様々な臓器の固形腫瘍に対する化学療法、免疫チェックポイント阻害薬治療を行っています。外科や放射線科とも連携をし、術前・術後化学療法、放射線治療など集学的な治療を実践しています。治療中の方のがんによる苦痛(疼痛など)を和らげる緩和ケアも並行して行っています。
- 消化器:食道・胃・十二指腸・大腸をはじめとする消化器疾患の検査と治療を行っています。また、ポリプや早期癌の内視鏡の治療を行っています。
- 糖尿病・内分泌:糖尿病をはじめとする内分泌疾患の検査、治療を行っています。また手術を受けられる患者さんの周術期血糖管理も実施しています。

【診療体制】

リウマチ、循環器、がん薬物療法、消化器など関連学会の専門医を中心に診療にあたっています。病棟では毎週内科全体で多職種カンファレンス(医師、看護師、薬剤師、理学療法士、栄養管理士、医療ソーシャルワーカー)を行い、包括的診療に取り組んでいます。

【診療方針】

多彩な分野の専門医が協働して診療を行い、幅広い視点から一人ひとりの患者さんを総合的に診療することを心がけています。入院中は生活の質(QOL)を落とさないように、薬物治療に加えてリハビリテーションにも積極的に取り組んでいます。原疾患の治療と再発予防、医療ソ-

シャルワーカーの介入によって、退院後の日常生活を含めたケアを行っています。

【対象疾患】

- リウマチ・膠原病:関節リウマチ、リウマチ性多発筋痛症、血管炎症候群、全身性エリテマトーデス、多発性筋炎、皮膚筋炎、強皮症、混合性結合組織病、ベーチェット病、成人ステイラ病、シェーグレン症候群、遺伝性血管性浮腫など
- 感染症:細菌感染症(肺炎、尿路感染症、皮膚感染症など)、ウイルス感染症(帯状疱疹など)、真菌感染症など
- 循環器:急性・慢性心不全、狭心症、心臓弁膜症、不整脈(心房細動など)、心筋症(心アミロイドーシスなど)、高血圧症、大動脈疾患、肺高血圧症、深部静脈血栓症、肺血栓塞栓症、睡眠時無呼吸症候群など
- 固形腫瘍:甲状腺がん、乳がん、膵がん、胃がん、大腸がん、肺がん、原発不明がん、肉腫など
- 消化器:消化器がん、胃・十二指腸潰瘍、胃炎、逆流性食道炎、炎症性腸疾患など
- 内分泌・糖尿病:1型、2型糖尿病、甲状腺疾患、副腎不全、免疫チェックポイント阻害薬による内分泌疾患など

【主な治療】

- リウマチ・膠原病:経口抗リウマチ薬、生物学的製剤(抗サイトカイン療法)、標的型合成抗リウマチ薬、免疫抑制療法、副腎皮質ステロイド療法、大量ガンマグロブリン療法、リウマチ性疾患のリハビリテーション、遺伝性血管性浮腫の予防・発作時治療
- 感染症:抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬等による治療、ガンマグロブリン補充療法
- 循環器:心不全包括的治療(薬物療法、運動療法、食事療法)、ペースメーカー治療、持続陽圧呼吸療法(CPAP)
- 腫瘍:抗がん剤治療、免疫チェックポイント阻害薬、放射線療法、緩和ケア
- 消化器:消化管薬(制酸剤、粘膜保護剤、消化管運動改善薬など)の内服治療、ヘリコバクター・ピロリ除菌治療、内視鏡的粘膜切除術、内視鏡的粘膜下層剥離術
- 内分泌・糖尿病:経口血糖降下薬、経口ホルモン剤、インスリンおよびその他の注射薬、持続式血糖測定器による血糖管理・薬剤調整

外科

1931年九州大学温泉治療学研究所開所以来、別府地区における九州大学病院外科として役割を担ってきました。消化器癌・乳癌を中心に、地元の先輩医師、九州大学本院と緊密に連携し、大学としての先鋭的な医療を推進しています。



科長 三森功士



外科集合写真

【得意分野】

- 腹腔鏡による胃癌・大腸癌・肝臓癌に対する徹底的な低侵襲手術
- 肝胆膵領域がんなどの、高度技能を要する外科手術
- ERCP等含む内視鏡的治療
- 乳癌に対する集学的治療と乳房再建術
- 鼠径ヘルニアなどの良性消化器疾患
- その他消化器内科的腹部疾患

【診療体制】

外科学会専門医8名(うち指導医4名)、消化器外科学会専門医4名(うち指導医4名)、日本内視鏡外科学会技術認定医1名、乳腺専門医1名、マンモグラフィ読影認定医2名、がん治療認定医5名が専門的な診療にあたっています。

【診療方針】

早期から終末期までがん診療に特化した科で、根治性を担保しつつ「徹底的な低侵襲」治療を目指します。一方、高度進行がんに対しても基本的に「根治性をあきらめない」診療をしています。また大学の病院として最新知識や技術を市民に還元し、役立てていただくことを心がけています。

【対象疾患】

消化管外科(胃癌、大腸癌、消化管間葉系腫瘍(GIST)、消化管穿孔など)、乳癌、肝・胆・膵外科(原発性・転移性肝臓癌、胆管癌、胆のう癌、膵臓癌など)、その他一般外科、高度(末期)進行がん

【主な治療法・高度先進医療】

- 消化管、肝・胆・膵、乳腺の悪性腫瘍に対する手術
- 最新機器による放射線照射療法(放射線科)、最新の分子標的療法、化学療法
- 低侵襲治療(腹腔鏡下手術)
- 高齢者に対する負担の少ない低侵襲手術

【学会施設認定】

日本外科学会(指定関連施設)、日本消化器外科学会、日本乳癌学会(認定研修施設)、日本臨床腫瘍学会、日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会

整形外科

2011年4月に九州大学病院別府病院に整形外科が開設され、これまで“脊椎外科”に特化した診療を行ってきました。2025年4月から新たに関節外科の診療を開始し、股関節疾患や膝関節疾患を中心により幅広い診療を行っています。



科長 播広谷勝三



側方侵入推体間固定術

「得意分野」

脊椎疾患全般を対象に治療を行っています。坐骨神経痛の原因となる腰部脊柱管狭窄症や腰椎椎間板ヘルニアに対する内視鏡手術や棘突起縦割式椎弓切除術、骨粗しょう症に伴う脊椎圧迫骨折に対する骨セメントを用いた経皮的椎体形成術などの低侵襲手術や脊柱側弯症・後弯症に対する矯正固定術などを行っています。

また、関節外科では変形性関節症や関節リウマチに対して人工股関節全置換術や人工膝関節全置換術、単顆型人工膝関節置換術のほか、関節温存手術(骨切り術)などを行っています。

「診療体制」

整形外科医 7 名が専門的な治療にあたります(日本整形外科学会専門医 6 名、日本脊椎脊髓病学会・脊椎脊髓外科指導医 2 名、日本人工関節学会認定医 1 名)。

〔診療方針〕

病状は患者さんによってそれぞれ異なります。手術的治療ばかりでなく、薬物療法、リハビリテーションを含めた保存的治療を、最新の知識・技術に基づいて考え、十分な説明と同意のもとに行うように心がけます。

〔対象疾患〕

■脊椎・脊髄疾患:腰部脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニア、頸椎症性脊髄症、頸椎症性神経根症、脊柱靱帯骨化症、脊柱側湾症、脊柱後湾症、骨粗しょう症、脊椎圧迫骨折、脊椎・脊髄腫瘍 など

■関節疾患:変形性股関節症、大腿骨頭壊死症、股関節インピンジメント症候群、変形性膝関節症、関節リウマチなど

〔主な検査〕

X線、CT、MRI、脊髄造影、血管造影、骨密度検査 など

〔主な治療〕

■ 脊椎・脊髄疾患：内視鏡手術（腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症など）
脊椎固定術（側方経路腰椎椎体間固定術を含む）
脊柱側わん症・後わん症に対する矯正固定術
脊椎圧迫骨折に対する骨セメントを用いた経皮的椎体形成術
腰椎椎間板ヘルニアに対する椎間板内酵素注入療法

■関節疾患:人工関節置換術(人工股関節全置換術や人工膝関節全置換術、単顆型人工膝関節置換術)、股・膝関節温存手術(骨切り術)など

[学会施設認定]

日本整形外科学会、日本脊椎脊髓病学会

婦人科

婦人科一般診療、悪性腫瘍、女性ヘルスケアといった婦人科全般の専門領域に関して診療を行います。2006年5月1日に当院での産婦人科診療を休止しましたが、2024年4月から再開し、本年度は3年目となります。婦人科一般診療、悪性腫瘍、女性ヘルスケアといった婦人科全般の専門領域について、他医療施設(病院・クリニック)と連携した診療を推進していきます。



科長 園田顯三



婦人科診察室

〔診療体制〕

日本産科婦人科学会の専門医4名(内指導医1名)、日本婦人科腫瘍学会の専門医・指導医1名、日本臨床細胞学会の専門医・指導医1名、日本遺伝性腫瘍学会の専門医1名で専門的な診療にあたります。診療に際しては、個々の患者さんに最適な治療法をスタッフ一同が他専門診療科とも連携しながら行っています。

〔診療方針〕

患者さんの全身状態・病状を評価し、適切な治療の提供を心掛けます。年齢・合併症を考慮し、必要に応じ専門診療科と相談しながら診療を推進します。悪性腫瘍の診療に際しては、新たに報告されるエビデンスも取り入れた治療を行います。

「得意分野および対象疾患」

■婦人科一般診療：良性腫瘍（子宮筋腫・卵巣嚢腫など）、性感染症、骨盤臓器脱 等

■悪性腫瘍および関連疾患:子宮頸部異形成・子宮頸癌、子宮内
膜増殖症・子宮体癌、卵巣癌、外陰・陰癌 等

■女性ヘルスケア:月経困難症・月経不順・更年期障害 等の検査・治療。なお、不妊治療、産科診療(妊婦健診・分娩など)は行いません。

〔主な検査〕

患者さんの全身状態・病状を評価し、必要な検査を行います。婦人科領域では検査としての手術(子宮頸部円錐切除術、内膜全面搔爬術、腹腔鏡手術など)が行われますので、入院しての検査を提案することがあります。

〔主な治療〕

病気の診断に必要な検査を行い、治療を開始します。検査には、上述した様に入院して行う手術も含まれます。治療として外来での投薬(抗生剤やホルモン剤など)を行う病気がありますが、悪性腫瘍の場合は手術療法、放射線療法、化学療法の中から適切な治療法を組合わせて行います。

婦人科の悪性腫瘍(特に子宮頸癌)に対する重要な治療法の一つに、小線源を使用する放射線療法があります。当院では2026年4月から遠隔操作密封小線源治療(RALS)を開始しました。外部照射とRALSを組み合わせる放射線療法は肝要な治療と位置付けられます。最新のシステムを導入し放射線科と協力しながら、安全で効果的な治療を提供いたします。

放射線科

新病院では、フィリップス社製3テスラMRI装置、旧病院よりもより高精度な放射線治療が可能なバリアン社製放射線治療装置など、九大病院本院と同じ装置へ更新しました。これで本院と同等の放射線診療を提供可能となり、スタッフ一同協力してより体に優しい放射線診療を提供してまいります。



科長 平川雅和



バリアン社製 高精度放射線治療装置

【得意分野】

各種画像診断装置と高精度放射線治療装置を導入し、主に様々な悪性腫瘍を対象として、画像診断、放射線治療、内視鏡的治療、画像下治療(血管内治療など)に幅広く取り組んでいます。前立腺癌や肺癌など様々な悪性腫瘍に対する高精度放射線治療を行っています。多くの患者さんを、豊富な湯量に恵まれた温泉を備える別府の素晴らしい療養環境で専門的な放射線診療を行っています。

放射線治療について

IMRTや体幹部定位照射などの高精度放射線治療を大分県下では他院に先駆けて2009年より開始し、安全性と効果の高い治療を提供しています。4次元CT撮影、呼吸モニタリングシステム、体表位置照合システムなどを用いて、精度が高く、体への負担の少ない治療を目指しています。短期間で高い治療効果が望める定位照射は、早期肺癌に対して従来より施行してきましたが、2024年にVarian社TrueBeamを導入し、肝腫瘍、骨などへの小数個の転移や、より高い精度管理が必要な脳転移にも対応可能となりました。さらに、2026年5月より小線源治療装置であるVarian社BRAVOSを導入し、同室CTを備えたシステムにより、子宮頸癌などの婦人科腫瘍を中心とした腔内照射を開始予定です。治療は専従の医師・技師・看護師が対応致しますので、安心して治療を受けていただけます。

【診療体制】

日本医学放射線学会放射線科専門医3名(診断専門医1名、治療専門医2名)、日本放射線腫瘍学会認定医2名、日本IVR学会専門医1名、第一種放射線取扱主任者免状を1名が保持し、専門的な放射線診療にあたっています。

【診療方針】

可能な限り、低侵襲な画像診断と治療が提供できるよう、各専門医が診療を担当します。さらに、院内各科の専門医師とも緊密に連携し、診療に取り組んでいます。

【対象疾患】

各種悪性腫瘍など

【主な検査】

320列マルチディテクタCT 検査、3T MRI検査、血管造影検査

【主な治療】

■各種悪性腫瘍に対する高精度放射線治療(強度変調放射線治療・画像誘導放射線治療・定位照射・腔内照射)

■肝臓・胆のう・膵臓や血管狭窄病変に対する、画像介入下低侵襲治療(IVR: 経皮的治療・血管内治療)

【学会施設認定】

日本医学放射線学会認定放射線科専門医修練機関 画像診断、IVR、放射線治療部門

麻酔科

麻酔科の主な診療内容は、手術時の麻酔管理です。手術を受ける際には痛みを取ると同時に呼吸、循環、代謝など、手術時に刻々と変化する生体反応を制御する必要があります。生体の機能をコントロールし、患者さんの安全を確保するのが麻酔科医の役割です。



科長 瀬戸口秀一

【得意分野】

麻酔科の診療は手術、検査実施時の麻酔・全身管理がメインですが、病棟での重症な患者さんの循環、呼吸、代謝管理などのサポートも行います。

【診療体制】

現在麻酔科医3名(麻酔科専門医1名、医員2名)で、別府病院で行われる年間900件以上の手術麻酔を担当しています。外科、整形外科、婦人科の手術治療時に、全ての麻酔管理を麻酔科専門医の管理下に実施しています。手術前日までに患者さん訪問を実施し、診察と麻酔の説明を行います。

【診療方針】

手術時の麻酔管理では、安全で最適な麻酔管理を実施します。そのために、手術内容と患者さんの情報を基に、最適な麻酔方法・全身管理を検討し患者さん本人やご家族に説明します。それぞれの患者さんの納得の上で術後の痛みなどストレスが少ない麻酔法を選択していきます。術後の疼痛管理は、担当診療科の主医、看護師と協力して実施します。

【対象疾患】

当科が麻酔を担当する対象疾患は、手術治療を必要とする全疾患に及びます。小手術の場合は担当科で局所麻酔をして手術をすることもあります。

【主な検査】

麻酔管理に必要な検査(血液検査、心電図検査、呼吸機能検査、胸部単純X線撮影など)は、基本的には入院前後に治療担当診療科で実施します。さらに手術前に麻酔医が診察し、動脈血液検査、心エコー検査など特殊な検査を追加させていただくことがあります。手術中に麻酔科医は、日本麻酔科学会の勧告するモニター指針に従って、患者さんのバイタルサインを看視します。必要に応じて、観血的動脈圧測定、中心静脈圧測定、脳波モニターなども加えます。

【主な治療】

別府病院で行われる手術の麻酔管理を行います。

【学会施設認定】

麻酔科認定病院(日本麻酔科学会)

リハビリテーション科

リハビリテーション科では、さまざまな疾患によって低下した身体機能を、個々の患者さんがその人らしく生活できるよう回復を促し、自立した社会生活機能を最大限に向上させるようリハビリテーションを行っています。



科長 播広谷勝三



理学療法士による温水プールでの運動指導

【得意分野】

当院の整形外科ではこれまで脊椎・脊髄疾患に特化した診療を行ってきましたが、2025年度から新たに関節外科の診療を開始しております。当科では整形外科の手術前後の運動器リハビリテーションを行っています。また、当院の内科の特徴である関節リウマチや膠原病のほか、パーキンソン病、心疾患、脳血管障害、高齢者の生活習慣病や呼吸器疾患、悪性腫瘍を対象とした「がんのリハビリテーション」も行っています。

【診療体制】

医師2名と理学療法士5名、作業療法士1名、技能補佐員1名で診療にあたっています。

【診療方針】

専任医師の指示の下で、さまざまな疾患から生じた機能的および社会的な障害を把握し、インフォームド・コンセントを行った上で、個々の患者さんのニーズに合ったリハビリテーションを提供することを基本方針としています。

【対象疾患】

- 脊椎脊髄疾患(椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症など)
- 関節疾患(変形性股関節症、変形性膝関節症など)
- 関節リウマチ、膠原病
- パーキンソン病

■脳血管障害

■心疾患

■高齢者の生活習慣病や呼吸器疾患

■悪性腫瘍(がんのリハビリテーション)など

【主な治療】

疼痛の訴えや身体的・社会的障害に対し、患者さんのニーズに合わせ、徒手療法や物理療法、温泉(水治)療法、作業療法、理学療法、ADL指導などを行い、早期回復・社会復帰の手助けをします。

【設備と特色】

通常のリハビリテーション室に加えて、温泉湧出量日本一の地域の特徴を活かした温泉運動プール(9.5m × 4.8m × 1.1m)などの温泉リハビリテーション施設を備えています。温泉プールでは、理学療法士がプールに入って運動指導を行うこともあります。また、温泉療法と徒手療法を組み合わせたりリハビリテーションも特徴のひとつです。そのほかに「がんのリハビリテーション」や患者さん向けの糖尿病教室・リウマチ教室も行っています。さらに、施設敷地内には大森林があり、自然遊歩行コースを設けて市民の方々にも開放しています。

【教育】

学生教育では、理学療法士や作業療法士養成校から、数名の臨床実習生を受け入れています。



リハビリテーション部

病気によって低下した身体機能を、患者さんがその人らしく生活できるよう回復させ、さらに自立した社会生活機能を最大限に向上させる、急性期から慢性期にわたるリハビリテーションを行います。

【運営体制】

リハビリテーション部長1名、診療講師1名、理学療法士5名、作業療法士1名、技能補佐員1名で構成。

【運営方針】

障がいに対し、身体の良い面に着目して、潜在する機能を最大限に引き出し、「その人が、再びその人らしく生活できるように」患者さんを主体としたリハビリテーションを基本方針にしています。

【業務内容】

脊椎脊髄疾患、関節疾患、関節リウマチや膠原病、パーキンソン病、心疾患、脳血管障害、高齢者の生活習慣病や呼吸器疾患、悪性腫瘍などのリハビリテーションを中心に行っています。

【設備】

リハビリテーション室のほかに、温泉運動プール(9.5m×4.8m×1.1m)などの温泉施設を備えています。

【特色】

理学療法、作業療法に加え、温泉プール治療などの物理療法の特性を組み合わせたリハビリテーションを行っています。また「がんのリハビリテーション」も行っています。

【教育】

学生教育では理学療法士、作業療法士養成校から、数名の臨床実習生を受け入れています。

検査室

1977年10月に設置された検査室は、病院再開発に伴い、2024年3月に生理検査室が新病院A棟へ、2026年3月に検体検査、細菌検査、病理検査室がB棟へ移転しました。



検体検査室の様子

【運営体制】

検査室長(病理医)、臨床検査技師8名の体制で日々の臨床検査を行っています。時間外緊急検査は、オンコールによる24時間体制で対応しています。

【運営方針】

検体検査の院内検査項目は、すべて迅速報告を実施し、外来診療の質向上に貢献しています。また、ICTなどの院内活動や委員会にも参加し、重要な役割を果たしています。

【業務内容】

①検体検査室(生化学、血液、免疫血清、輸血、一般検査等)、②生理検査室(心電図、肺機能、超音波検査等)、③病理検査室(病理組織検査・細胞診、迅速病理検査)、④細菌検査室(血液培養、薬剤感受性検査)にて別府病院の診療に不可欠な臨床検査を行っています。

【設備】

生化学汎用自動分析装置、多項目自動血球分析装置、全自動血液凝固測定装置、血液ガス分析装置、自動血液培養検査装置、自動閉鎖式自動固定包埋装置、自動免疫染色装置、超音波診断装置など

【特色】

各診療科が行う研究活動等への支援も行っています。

【教育】

毎年、臨床検査技師養成学校から学生実習を受け入れて、これからの臨床検査技師の育成も行っています。

手術室

外科的治療のうち、手術治療を行う施設です。

【運営方針】

安全で円滑な手術治療が行える環境を整備することが基本です。そのため計画に基づいた手術時の麻酔管理、患者看護、手術介助、手術室の環境維持、手術機器・衛生材料の管理などを行っています。

【業務内容】

麻酔科医による周術期麻酔管理では、手術前診察、手術時全身管理、診療科主治医と協力した手術後の鎮痛管理を行います。また、手術室専任看護師による手術前後の患者訪問、手術看護、手術介助を行います。手術室の管理は麻酔科医を中心に、看護スタッフ、診療科医師を含めて行います。

【特色】

安全な手術を実施するために手術室の生体情報は、手術管理室のセントラルモニタで情報管理を行っています。3手術室のうち2室は無菌手術室で、高度な衛生状態で手術治療が可能です。新しい手術法や腹腔鏡手術も積極的に取り入れ、安心安全な医療の提供に努めています。

診療放射線室

集学的診療に対応するため、質の高い放射線診療を提供できるよう努めています。



CT撮影装置

【運営体制】

放射線科医師4名、診療放射線技師7名、事務職員1名で構成しています。

【運営方針】

医療目的に適した最良の放射線診療(診断・治療)を提供するとともに、患者さんおよび医療従事者の放射線被ばくを可能な限り低減し、安心して放射線診療を受けていただけるよう努めています。

【業務内容】

■画像診断: 一般X線撮影、乳房撮影、X線透視検査、X線CT検査、MRI検査、心臓・血管造影検査、骨塩定量検査

■IVR治療: 塞栓療法、動注療法、リザーバ留置、各種血管内治療

■放射線治療: 各種悪性腫瘍に対する放射線治療(外照射)、体幹部定位放射線治療(SBRT)、強度変調放射線治療(IMRT)、画像誘導放射線治療(IGRT)、遠隔操作密封小線源治療(RALS)

【設備】

一般X線装置、乳房撮影装置、X線透視撮影装置、骨塩定量装置、移動型X線撮影装置、X線CT装置(320列)、MRI装置(3.0T)、心臓血管撮影装置、放射線治療装置(リニアック、RALS)

【特色】

九州大学病院と同等のラインナップを揃え、低被ばく化、高速化、高品質化を実現しています。またスタッフも九州大学病院とローテーションを行い、診断から治療までを含めた集学的な診療を実践することで、満足度の高い質の高い医療の提供を目指しています。

中央材料室

中央材料室は、安全な医療器材の提供に努め、洗浄・組み立て・滅菌全般を行っています。



オートクレーブ滅菌器

【運営方針】

- 医療器材の洗浄・滅菌を一括管理し、滅菌の質を保証し、安全な医療材料の提供を行う
- 医療器材の効率的運用を図り、病院経費の節減に努める

【業務内容】

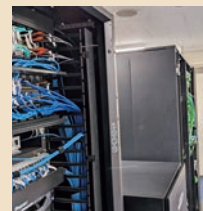
- 診療上必要とする医療器材の洗浄・滅菌を一元的に行っています。各病棟・外来・内視鏡室・手術室の使用済み器材の回収・洗浄・組み立て・点検を行い、器材に合った滅菌の実施・器材の保管・供給を施行しています。
- 安全で効率的な医療材料が提供されるよう、中央材料室が主体となって各部署で必要な医療器材を算出し、定数配置を実施しています。
- 使用する洗浄装置や滅菌装置は、日常点検・法定保守点検を施行し、定期的に点検整備を実施しています。

【設備】

- オートクレーブ滅菌器2台、プラズマ滅菌器1台、ウォッシュャーディスインフェクター 1台、減圧沸騰式洗浄機1台

メディカル・インフォメーションセンター分室

診断と治療の精密化を図る目的で導入した病院情報システムと、病院情報ネットワークシステムの維持管理を行っています。



病院情報システムサーバー

【運営体制】

メディカル・インフォメーションセンター（以下MICと略す）分室長、事務職員、委託職員で業務を担当し、運営は各部署代表者で構成されるMIC分室運営委員会が安定した病院情報システム運用のためにトラブル防止や問題点を討議しています。

【運営方針】

九州大学病院別府病院は、2013年に電子カルテを導入し、その後整備を進めてまいりました。解決すべき課題も残っていますが、これからより使いやすいシステムの構築と安定運用のために努力を継続します。また急激に蓄積する電子データを安全に管理しながら解析する基盤を構築することにより、各部署や診療科のさまざまなニーズに対して支援を行います。

【業務内容】

電子カルテを中心とした病院情報システムの管理、部門システムを含めたネットワーク管理、地域医療ネットワーク管理、インターネット監視、災害時バックアップシステム管理

【設備】

- 病院情報システム：サーバ・情報機器群、電子カルテ端末、医用画像フィルムレスシステムなど
- 病院情報ネットワーク：電子カルテネットワーク、部門システムネットワーク、九州大学総合情報伝達システム(KITE)、全国医療情報プラットフォーム

【特色】

MIC分室は、各部署や各診療科との話し合いを広くもちながら、医療安全管理や医療の質向上を担うと同時に、患者さんにも医療者にも優しいシステムを目指しています。また、九州大学病院本院のメディカル・インフォメーションセンターとの連携も行い、双方のシステム閲覧の基盤構築や情報セキュリティの強化に取り組んでいます。

【教育】

新任職員へのセキュリティ講習や病院情報システムの操作講習を行っています。

地域医療連携室

地域医療連携室は患者さんが地域で一貫性のある治療を受けられるよう地域医療連携を強化し、地域医療の質の向上に貢献することを目指しています。



地域医療連携室

診療録管理室

診療録管理室では、電子カルテ導入以前の紙カルテ、電子カルテ、同意書などの文書の管理を行っています。

【運営体制】

社会福祉士(MSW:医療ソーシャルワーカー) 2名、看護師1名、事務職員2名で業務を遂行しています。

【業務内容】

■医療連携業務

地域の医療機関からの紹介患者さんの受け付けや、紹介元医療機関への返書管理、外来受診・入院報告をはじめ、入院退院管理業務を行い、効率的な病床稼働に努めています。

■入院調整業務

毎日、入院退院小委員会を開催し、入院患者さんのスムーズな受け入れを図るため、各病棟看護師長と協同し、連絡調整を行っています。

■在宅療養支援、退院・転院支援業務

退院後、地域で医療・介護サービスなどを利用する患者さんに対し、地域医療機関、訪問看護ステーション、介護施設などとの有機的な連携を図り、切れ目のないサービスの活用が行えるよう支援を展開しています。

【特色】

地域医療連携室が患者さんと地域医療機関との“かけはし”となるよう、社会福祉士を中心に多様な医療・福祉相談に応じています。

【運営方針】

診療録を適切に保管、管理します。また、記録の監査を行い、診療録の精度向上を目指します。

【業務内容】

■診療録の監査業務

診療情報のすべてが記載される診療録は、診療報酬請求の根拠となるため、診療録に記載すべき内容が正確に記載されているかを監査しています。

■DPC調査提出業務

DPC調査提出データを作成し、厚生労働省に提出しています。

■文書の電子化業務、CD画像の取込業務

診療で発生する同意書などの院内文書や他院からの診療情報提供書を電子化し、電子データを原本として管理しています。また、患者さんが持参したCD画像を電子カルテへの取り込みを行っています。

■全国がん登録提出業務

全国がん登録届出書の提出を行っています。

■紙カルテの貸出業務

電子カルテ導入以前の診療録を管理し、診療などで使用する際の貸出業務を行っています。

栄養管理室

適切な栄養療法の実施、栄養に関する教育、情報の発信などを行っています。

【運営体制】

栄養管理部門と給食管理部門の2部門で構成されています。

■栄養管理部門は入院患者さんの栄養管理と、入院・外来患者さんの食事指導を行っています。

■給食管理部門は委託給食を行い、栄養管理部門と連携し、個人の病態や状態に合わせた、より質の高い食事の提供を行っています。

【運営方針】

「病院食は『あくまでも食事』『さりげなく治療食』としての心配りを！」を理念に掲げ、患者さんに安心しておいしく食べてもらえる治療食の提供を行っています。

■栄養治療に関する知識や調理技術の向上、相手のことを想像できる感性を磨くなど、つねに自己研鑽しています。

【業務内容】

■個人の病態や状態に合わせた食事の提供(220食/日)

■総合栄養支援チーム(NST)の運営

■外来ならびに入院患者さんへの食事療法の説明、指導

【特色】

■各科において毎週1回、合同カンファレンスを行い、多職種と連携したチーム医療を行っています。

■患者さんと栄養士、双方の顔が見える栄養管理

■電算化による業務の効率化と調理機器の電化による徹底した衛生管理

【教育】

■各地の栄養士養成施設(大学や短期大学)からの臨床実習生の受け入れ

■地域大学の臨床栄養についての講義に、講師を派遣

薬剤室

薬剤の適正使用と安全管理を担う専門部署として、質の高い薬物療法の提供に取り組み、地域に信頼される医療への貢献を目指しています。



注射薬無菌調製室

【運営方針】

専門的な知識と技術を駆使し、薬剤の適正使用を推進するとともに、患者さん中心の良質で安全な医療の提供に貢献することを理念としています。最新の医療知識やエビデンスを迅速に臨床へ反映できる体制を整え、高度医療と地域医療をつなぐ役割を担っています。

【業務内容】

調剤、医薬品管理、注射薬無菌調製、薬剤管理指導、製剤、DI(医薬品情報管理)、医薬品安全管理 など

【設備】

処方チェックシステム、麻薬・血液製剤管理システム、PTP・一包装・散剤鑑査支援システム、全自動錠剤分包機、安全キャビネット、クリーンベンチ

【特色】

■入院患者さんに対し、持参薬の確認・評価、薬物療法の有効性・安全性の評価、処方提案、服薬指導を実施し、多職種と連携して質の高い薬学的ケアを実践しています。

■がん専門薬剤師による薬剤師外来を実施し、外来がん化学療法における副作用管理や服薬支援を通じて、患者さんの不安軽減と治療継続を支援しています。

■地域の保険薬局との連携を推進し、レジメンやがん治療、手術前の休止薬などの情報を共有することで、入院から退院後、外来まで切れ目のない薬物療法の提供に努めています。

■NST、乳腺チーム、感染対策、医療安全などの多職種チームに参画し、薬学的視点から治療支援とリスクマネジメントを行っています。

看護室

心のこもったケアと安全で安心な医療の提供を行うために、患者さんを中心としたチーム医療を推進し、多職種間で認め合い必要とされる看護を目指しています。



新人教育(プリセプター制度)

【運営体制】

外科・婦人科、整形外科、内科・放射線科を中心とした3病棟と外来、手術室の5つの看護単位において、看護師長3名、副看護師長9名と看護師、看護助手の計105名の看護職員が看護を行っています。医療安全や感染対策など6つの看護室委員会、がん看護、NSTなど6の看護WGを運営しています。

【理念】

私たちは、人間性を尊重し、患者さんに信頼される質の高い看護を提供します。基本方針として、九州大学病院本院の方針に倣い、看護の質の向上と人材育成、自己啓発・研鑽の促進、業務改善と活気ある職場づくり、地域医療連携の推進、接遇の向上などを目標にしています。

【特色】

1.7:1看護体制とPNS(パートナーシップナーシング・システム)による、質の高い看護の提供に努めています。

2.地域医療と大学病院機能を併せ持つ分院として、急性期から在宅移行まで切れ目のない看護を実践しています。

3.新人看護師の受け入れにはプリセプターナースを設定し、他にもさまざまな役割を担う教育体制を整備しています。

【教育】

1.本院と連動した継続教育を基盤に、OJTと集合研修を組み合わせ、確実な実践力を育成しています。

2.大分県看護協会の企画研修会やその他の研修などへ積極的に参加を推進しています。

3.業務改善報告会、看護研究発表会を実施し、看護学会などへの発表を目指した看護研究にも取り組んでいます。

事務室

事務室では、患者さんの受診に関する業務、医薬品などの購入、教職員に関すること、経理に関すること、建物の維持管理に関することなどさまざまな事務処理などを行っています。



待合ロビー

【庶務・人事系業務】

会議などの庶務事務、教職員の人事・労務管理・福利厚生、法規や労働安全衛生、別府病院執行部の運営方針の執行に係る事務処理などを行っています。

【経理系業務】

適正な病院運営を行うための予算管理、経営分析などのほか、給与などの支払い、共済組合などの事務も行っています。

【用度・施設系業務】

医薬品、医療材料や研究用品の購入・管理、契約、入札、建物などの維持管理などに関する業務を行っています。

【医事系業務】

患者さんの外来受付と入退院に関すること、保険給付に係る請求業務、諸料金の収納その他、患者サービスに関する業務を行っています。